1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472700277
法人名	社会福祉法人　永楽会
事業所名	認知症高齢者グループホームそよかぜ
所在地 （電話番号）	宮城県黒川郡富谷町富谷字桜田1番地11 （電　話）022－348－1631

評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェルビル
訪問調査日	平成19年6月13日

【情報提供票より】19年6 月1日事業所記入

（1）組織概要

開設年月日	平成　13　年　1　月　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤　7　人，非常勤　2　人，常勤換算　8．17

（2）建物概要

建物形態	併設／〇単独	〇新築／改築
建物構造	木造平屋造り	
	階建ての　階　～　階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	16,500　円		その他の経費（月額）	37,500　円
敷　金	有（　円）		〇　無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1，000円		

（4）利用者の概要（ 6月1日 現在）

利用者人数		9 名	男性	2 名	女性　7 名
要介護1		2 名	要介護2		2 名
要介護3		3 名	要介護4		2 名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	86 歳	最低	80 歳	最高　93 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団益和会　富谷医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

富谷町包括支援センター、社会福祉協議会を中心に特別養護老人ホーム、デイサービス、ケアハウス、障害者通所施設と総合福祉エリアの一画にあるグループホームは、町との連携も取りやすい。町内会長、民生委員の力も借りながら地域の行事、交通安全運動の啓発、ボランティアとの交流など積極的に行っている。主治医との連携もよく、法人との年二回の防災訓練も確実に行われている。開所から六年、利用者の平均年齢も高くなり、本人の希望、持てる力の引き出し方が難しくなるなか、入居者一人ひとりに寄り添い、「ADL（日常生活動作）の低下を諦めない」「入居者の言葉を大切にする」という職員の言葉に、入居者主体のケアが行われていることが感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 連絡帳による毎日の申し送りは全職員が確認したことがわかる仕組みはあるが確実に行われていなかったが、改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 全項目を全職員でという時間は取れなかったが、文章化された項目を考えることにより、一人ひとりの職員が振り返り、自分たちの目指す方向性をあらためて確認したとのことである。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） 前年度から四回運営推進会議が開催され、利用者、包括支援センター、町内会長、家族の方の協力を得て、地域の行事への参加、「とうみやの杜」の行事への協力などの話し合いがなされた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） 「苦情処理の仕組み」を分かりやすく図式化し家族へ説明がなされている。これまで苦情はなかったが、入居者の入院時の家族の不安などの相談に応じ、助言がなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 年二回の交通安全運動の啓発、地域の夏祭りへの参加をすることは恒例となっている。特養の「おもちゃ美術館」での小学生との交流や、ボランティアによる趣味の会への参加、買い物など積極的に外出の支援を行っている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念であるが、開所当時から地域との関係の大切さを基本に据えたものであり、ホームの目指す理念ともなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア会議において常に話し合い、利用者主体を常に意識したケアを心がけている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年二回の交通安全運動、地域の夏祭り、敬老会など積極的に参加している。ボランティアによる併設の特養の喫茶の利用や、趣味の会への参加など交流に努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全項目を全職員で行う時間は取れず、それぞれ項目毎に行ったが、あらためてホームの目指すもの、サービスの質の向上に取り組む意識付けがなされた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者も参加し、行政、家族、町内会長それぞれの立場から意見を述べ合い、年間行事への協力など話し合いが持たれた。しかし今年度は平日の開催ということで、家族の参加は得られていない。	○	ホームとしても家族の参加が得られるよう、行事に合わせた開催を考慮中とのことである。今後ますます家族、地域の協力が不可欠になると思われるので、会議の公表も含めサービスの向上につながることを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同じ敷地内に社会福祉協議会、地域包括支援センターがあるということで、利用者の状態の変化に対する相談、助言など、即対応して貰える。また、常に状況を把握し声がけもしてもらえるなど、連携は取れている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日の「生活の記録」のコピーを送付し、金銭については面会時に説明し、サインをいただいている。面会は最低でも月に一度はある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、苦情・相談窓口の説明を繰り返し行い、何でも話してもらえる体制をつくっており、相談しやすい雰囲気があることが、家族アンケートからも窺える。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の定期人事異動はあるが、利用者のダメージを考慮し行っている。それは新しい視点でホームを見直す機会になってる。異動は事前に家族にも説明がなされ、職員間の引継ぎもなされている。しかし、短期間で管理者が交代したことに不安を持つ家族もおられるので、最善の努力をしていただきたい。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間計画に沿って、内部研修、外部研修に参加し、資格取得のためのバックアップもある。非常勤の職員にこそ受講してもらいたいとのことであるが、研修内容を共有することでなお一層のレベルアップを期待したい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月法人の3グループホーム（共生型、デイサービス併設）の定例会を行い、今後内部の交換研修に向けて検討中である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前の職員の訪問や、グループホームを理解してもらうために、事前に利用者と一緒にお茶の時間を過ごしてもらったりすることにより、継続した支援を行っている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	犬の散歩、調理、後片付け、買い物など、利用者の得意分野で力を発揮してもらい、畑作りなど教えてもらうこともある。職員は「なぜやらなくなったのか」考えながら意識的に声がけを行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにより本人の希望を把握し、利用者も自分の思いを口に出して言えるよう、職員も努力している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聞き、必要があれば理学療法士や臨床心理士とも話し合い介護計画を作成し、また、コピーも渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア会議の中で利用者の状況を話し合い、介護計画の遂行状況を評価とともに行い、家族とも相談の上検討し、見直しを行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	福祉ゾーンとして特別養護老人ホーム・デイサービスも併設されているので、ホームとしては多機能性を活かした取り組みを行う考えはない。通院などは柔軟に対応している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師が、緊急時にも対応可能であり、併設施設に定期的に来訪する医師との相談も可能である。協力医療機関以外の受診の方もあるが、家族との連絡を密にし、連携はとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族、主治医と十分話し合いを持ち、本人の希望に添えるよう、ホームで対応が可能な限りケアにあたるという方針である。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	あからさまな誘導の声がけなどはなく、本人を尊重した穏やかな対応がなされている。個人情報などは事務室に保管され、個人情報の取り扱いについて文書化されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化してきたなかで、本人の思いをくみ取る努力をしていることが職員のヒヤリングからも窺えた。その日一日の一人ひとりの生活のリズムを尊重する支援がなされていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、食事の準備、後片付けなど、さりげない声がけのもと、利用者と職員が一緒に行い、食事も和やかな雰囲気である。利用者の苦手なものに対する配慮もなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する時間に入浴することができ、拒む人に対しては、さりげない誘導で対応している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、犬の世話、外出、お化粧の支援など個別対応を心がけ、時々車で遠出をしたりとメリハリのある生活を心がけてケアにあたっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、特養のボランティアによる週3回の喫茶コーナーへ、通院の際行きつけの美容院へ寄ったりと、その人に合わせた支援を行っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりの外出傾向をつかみ職員の見守りで対応し、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルも準備され、併設の特養と合同で年2回、利用者も参加し防災訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行われ、非常用食品、備品も準備されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立表に基づいた献立ではあるが、一人ひとりの嗜好に合わせ代替で対応することもある。また、食事や水分摂取量をチェック表で把握している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風の通る廊下にソファーが置かれ、利用者がくつろいだり、自室へ戻る際少し休んだりと活用されている。利用者の趣味の作品がさりげなく飾られ、ゆったりと過ごせる共用空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力により仏壇、使い慣れた家具など持ち込まれ、その人らしく過ごせる居室になっている。		